

令和7年度

地域公共交通人材育成研修

事例紹介：当別町

当別町企画部企画課企画係
主任 田中 大樹



1. 自己紹介



当別町企画部企画課企画係 主任 田中 ^{たいき} 大樹

出身：当別町

年齢：33歳

勤続：15年

交通担当：5年目



【経歴】

2010年3月	北海道札幌琴似工業高等学校卒業
2010年4月～	新規採用 住民課戸籍年金係
2015年4月～	人事異動 環境生活課環境対策係
2018年4月～	人事異動 企画課企画振興係
2021年4月～	人事異動 企画課企画係（交通担当）



2. 当別町の紹介



当別町
Tobetsu Town

石狩郡当別町（石狩振興局管内）

【基本データ】

- ◆人口：15,017人
- ◆基幹産業：農業（コメ・小麦・花き）
- ◆姉妹都市：大崎市（宮城県）
宇和島市（愛媛県）
レクサンド市（スウェーデン）

【当別町ってどんなまち？】

- ◆仙台藩岩出山伊達家が開拓したまち
- ◆北欧に似た風景などからスウェーデンとの繋がりがあまるまち
- ◆札幌市北区に隣接しており、都市部へのアクセスが良いまち
- ◆ロイズの工場があるまち
- 【おすすめスポット】
- ◆ロイズタウン工場
- ◆スウェーデンヒルズ
- ◆北欧の風 道の駅とうべつ



当別町イメージキャラクター

とべのすけ



3. 当別町の公共交通 の現状



(1) 札幌市と当別町を結ぶ鉄道
(JR 学園都市線)

(2) 北海道医療大学「①金沢キャンパス」～
「②あいの里キャンパス」間を含むコミバス4路線

(3) 当別町と月形町を結ぶJR代替バス1路線

鉄道路線(JR)	— — —
<コミュニティバス>	
あいの里金沢線	— (blue)
西当別道の駅線	— (orange)
青山線	— (green)
市街地予約型線 (デマンドバス)	■ (red)
<JR代替バス>	
月形当別線	— (purple)



4. 当別ふれあいバス について

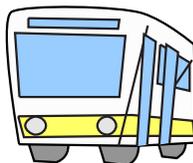


(1)当別ふれあいバスの成り立ち

同じような時間帯・路線を運行していたバス



路線バス・福祉バス
(当別町)
対象者：一般住民



医療機関等送迎バス
(北海道医療大学)
対象者：患者・学生



地域限定送迎バス
(スウェーデンハウス)
対象者：ヒルズ住民

問題①

重複している路線

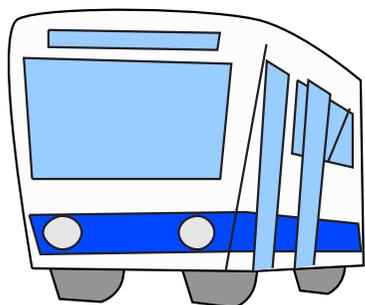
問題②

それぞれで負担している経費

問題③

利用者が限定されているバス

一元化



路線・経費をまとめて、だれでも利用できる
「コミュニティバス」を構築

経費圧縮を図りつつ、住民の足を確保!!



「当別ふれあいバス」の運行主体は当別町地域公共交通活性化協議会

(2)これまでの経過

- 平成17年度** 当別町バス交通体系調査検討委員会を設置
 ・路線、運行形態の検討 (国土交通省：自動車事故対策総合補助金対象事業)
- 平成18年度** **実証運行開始 (1年目)** (国土交通省：自動車事故対策総合補助金対象事業)
 ・平日87便、休日30便で運行開始
 ・2回のダイヤ改正と路線変更を実施
 ・国土交通省「公共交通活性化再生総合プログラム」の実施
- 平成19年度** **実証運行 (2年目)** (国土交通省：自動車事故対策総合補助金対象事業)
 ・2回のダイヤ改正と路線変更を実施
 ・当別町地域公共交通活性化協議会 (法定協議会) の設置
 ・当別町地域公共交通総合連携計画策定 (平成20年3月)
- 平成20年度** **実証運行 (3～5年目)** (国土交通省：地域公共交通活性化・再生総合事業対象事業)
 ～平成22年度
 ・小学生向けモビリティ・マネジメント開始 (平成20年～)
 ・ノンステップバスの導入 (平成21年)
 ・バス祭りの開催 (平成21・22年)
 ・平日80便、休日28便の本格運行路線の構築 (平成22年12月)
 ・4回のダイヤ改正と路線変更を実施
- 平成23年度～** **本格運行スタート** (国土交通省：地域公共交通確保維持改善事業)
 ・市街地予約型線 (デマンドバス) 運行開始 (平成27年10月～)
 ・西当別道の駅線運行開始 (平成29年9月～)
 ・当別町地域公共交通網形成計画策定 (平成30年3月)
 ・当別版Local MaaSの導入 (令和2年～)
 ・当別町地域公共交通計画策定 (令和5年3月)
 ・当別町地域公共交通利便増進実施計画策定 (令和6年3月)



(3)運行路線

あいの里金沢線【地域間幹線系統】

北海道医療大学～JR当別駅～JR太美駅

～医療大あいの里キャンパス

便数（平日）：40便

便数（土日祝）：22便

系統数：4系統

バス停数：34カ所



2 太美駅周辺

乗降区間

JR太美駅

北欧の風道の駅とうべつ

3 あいの里周辺

3

医療大あいの里
キャンパス



(3)運行路線

青山会館

予約型区間

青山線【地域内フィーダー系統】

JR当別駅～みどり野会館
～青山会館

便数（平日）：2便

便数（土日祝）：2便

系統数：2系統

バス停数：13カ所

フリー乗降区間

みどり野会館

当別駅周辺

1

JR当別駅

フリー乗降区間

西当別道の駅線【地域内フィーダー系統】

スウェーデンヒルズ～JR太美駅
～道の駅～ロイズタウン駅

便数（平日）：19便

便数（土日祝）：13便

系統数：5系統

バス停数：22カ所

スウェーデンヒルズ

2
太美駅周辺

ロイズタウン駅

JR太美駅

道の駅



(3)運行路線

市街地予約型線（デマンドバス）

【地域内フィーダー系統】

便数（平日）：8便

便数（土日祝）：運行なし

対象エリア：25地区

【運行エリア】

【運行便数等】

運行便数	1便	2便	3便	4便
運行時間	6:30~8:00	8:30~9:30	10:00~11:00	11:30~12:30
予約締切時間	前日の18:00まで	前日の18:00まで	当日の9:00まで	当日の10:30まで
運行エリア	Aエリアのみ	A・Bエリア	A・Bエリア	A・Bエリア

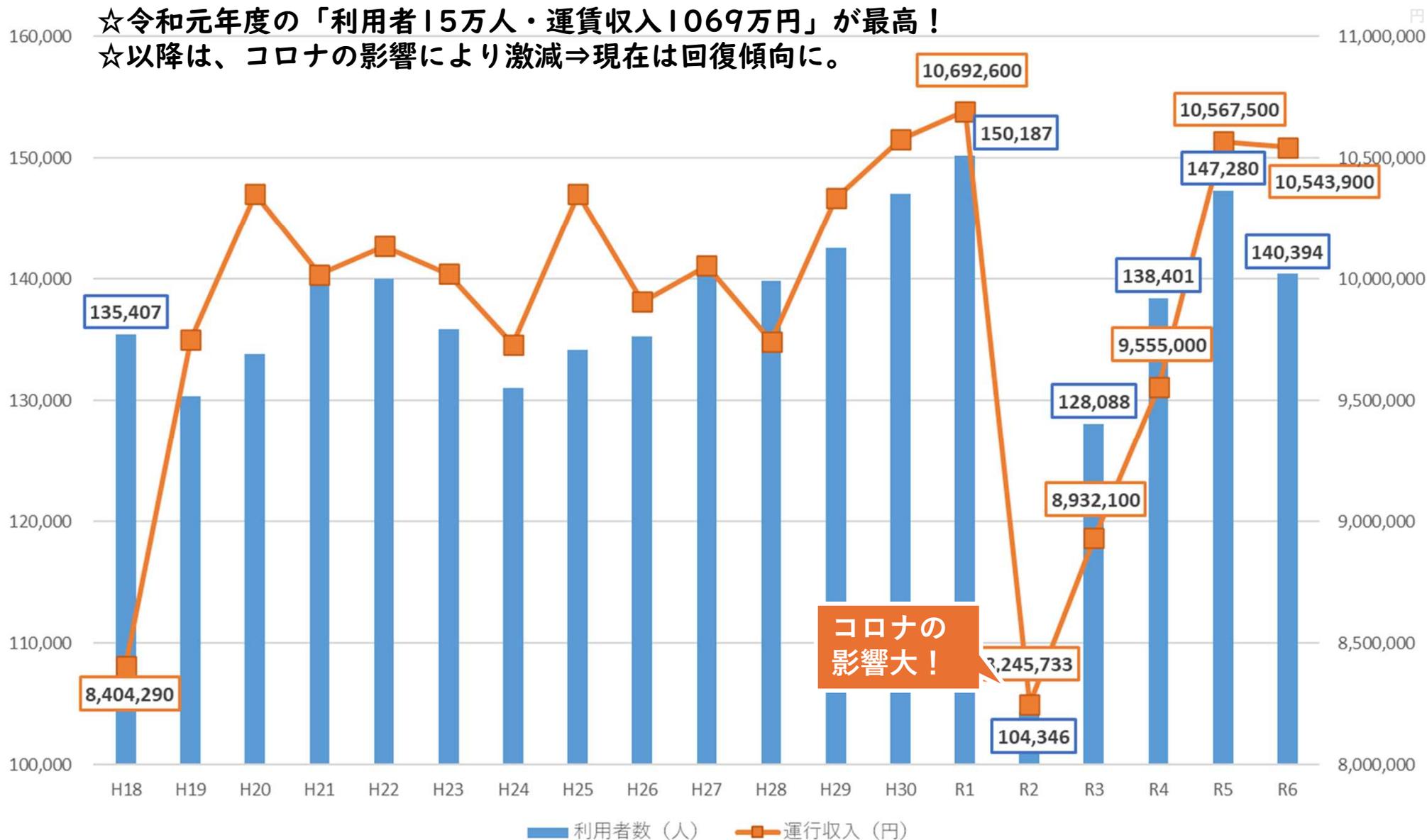
運行便数	5便	6便	7便	8便
運行時間	13:00~14:00	14:30~15:30	16:00~17:00	17:30~18:30
予約締切時間	当日の12:00まで	当日の13:30まで	当日の15:00まで	当日の16:30まで
運行エリア	A・Bエリア	A・Bエリア	A・Bエリア	Aエリアのみ



(4)利用実績

☆令和元年度の「利用者15万人・運賃収入1069万円」が最高！

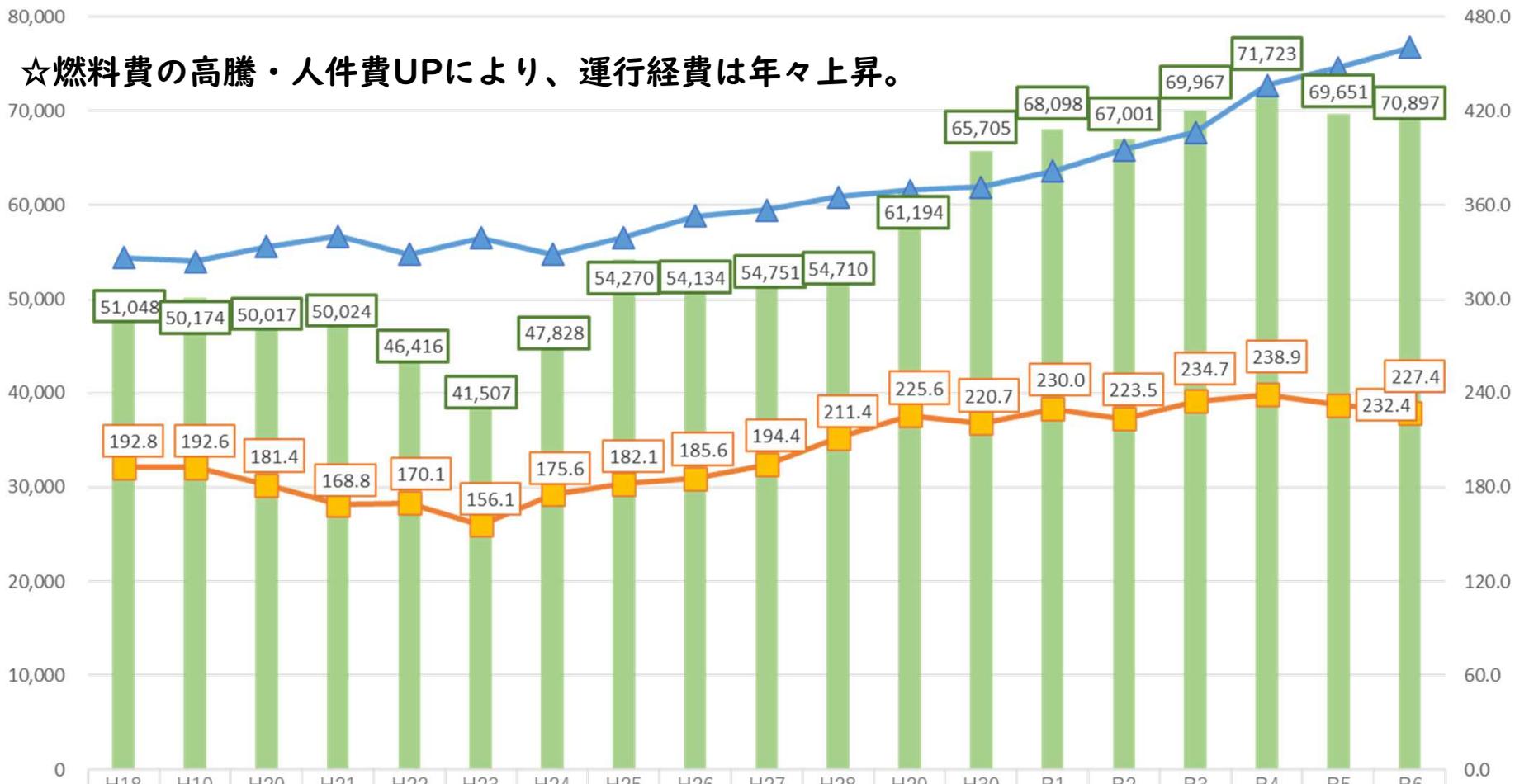
☆以降は、コロナの影響により激減⇒現在は回復傾向に。



コロナの影響大！



(5)運行実績



★実車走行距離 (km) H18 : 264,825km ⇒ R06 : 311,759km (+46,934km) 約18%増加
【ふれバ運行経費】 H18 : 51,048千円 ⇒ R06 : 70,897千円 (+19,849千円) 約39%増加
【ふれバキロ単価】 H18 : 192.8円 ⇒ R06 : 227.4円 (+ 34.6円) 約18%増加
【南北海道キロ単価】 H18 : 326.8円 ⇒ R06 : 460.3円 (+133.5円) 約41%増加

5. 地域公共交通計画と 地域公共交通利便増進実施計画 について



(1)計画の役割

地域公共交通計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすもの（「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き」より）



当別町では、
地域公共交通計画をマスタープランとして位置付け、地域公共交通利便増進実施計画をアクションプランとして位置付けて策定



当別町の公共交通のビジョンを指し示すもの＝地域公共交通計画（マスタープラン）
ビジョンの実現に向けた具体的な取り組み（事業）＝地域公共交通利便増進実施計画（アクションプラン）



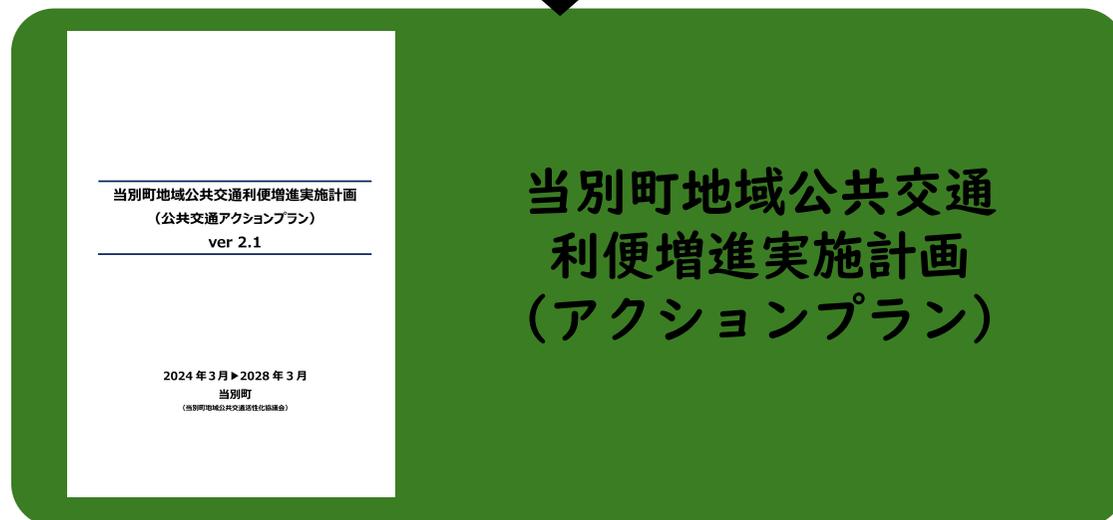
担当者が変わってもアクションプランに基づいて事業を行えばビジョンに近づける！



当別町地域公共交通計画
(マスタープラン)



連携・整合



当別町地域公共交通
利便増進実施計画
(アクションプラン)

(2)当別町地域公共交通計画

背景・目的

当別町では「当別町地域公共交通総合連携計画（平成20年3月策定）」、「当別町地域公共交通網形成計画（平成30年3月策定）」に基づき、利便性向上や持続性確保に向けた取組を行い、一定の成果が得られてきましたが、交通を取り巻く状況が大きく変化してきたことを踏まえ、計画の見直しにより、より効果的・効率的な公共交通サービスを展開していくことが必要であり、これらの背景を踏まえて、まちづくりと一体となった持続可能な公共交通の実現を目指すことを目的として計画を策定しました。

計画期間 2023年4月～2028年3月

基本理念

安全・快適な移動を支える持続可能な地域公共交通の実現

基本方針

- (1)ニーズに合った持続可能な公共交通ネットワークの形成
- (2)地域にフィットするモビリティの導入
- (3)デジタル技術活用等によるサービスの高度化・利便性向上
- (4)サービスの安定供給に向けたリソース不足等への対応
- (5)公共交通の利用促進とクルマ依存の脱却促進



計画策定に向けた調査から、「ニーズへの対応」「利便性向上」「リソース不足」「利用促進」等の課題を抽出しました。

施策・事業

施策①：地域公共交通サービスの維持確保

事業1-1：地域公共交通サービスの維持確保

施策②：バス路線のネットワーク・ダイヤの見直し

事業2-1：あいの里金沢線のネットワーク・ダイヤの見直し

事業2-2：月形当別線のネットワーク見直し

事業2-3：西当別エリアのバス路線再編

施策③：新たなモビリティの検討・実証・導入

事業3-1：自動運転バスの実証運行

事業3-2：青山線の一部デマンド化

事業3-3：交通空白地の移動支援策検討

施策④：快適な公共交通利用環境の創出

事業4-1：低床車両への順次入れ替え

事業4-2：JR駅へのアクセス性改善

事業4-3：バス待ちスポットの創出

施策⑤：公共交通の情報提供の高度化

事業5-1：とべナビの機能強化・多面的活用

事業5-2：Googleマップと連携した情報発信

施策⑥：コミュニティバスの運賃体系や支払い方法の見直し・検討

事業6-1：運賃体系の見直し

事業6-2：キャッシュレス決済の導入

事業6-3：デジタルチケットの導入及び活用検討

施策⑦：公共交通の運転手確保対策の実施

事業7-1：バス・タクシーの運転手確保に向けた取組実施

事業7-2：感染症対策等の強化支援等によるリスク対策

施策⑧：モビリティ・マネジメント（MM）の実施

事業8-1：小中学生向けのMMの実施

事業8-2：ライフスタイル転換期を対象としたMMの実施

事業8-3：公共交通イベントの企画・実施

施策⑨：利用促進キャンペーン等の実施

事業9-1：小中学生向けの長期休暇定期券の企画販売

事業9-2：観光施設・商業施設と連携したバック乗車券の企画販売

事業9-3：お試し乗車券の配布

(3)当別町地域公共交通利便増進実施計画

地域公共交通計画のアクションプランとして策定！

地域公共交通利便増進実施計画とは？

利便性の高い地域旅客運送サービスの持続可能な提供を確保するためには、地域における公共交通ネットワークの再編のみならず、ダイヤ・運賃などのサービス面の改善を含め、地域ニーズにきめ細かく対応することが重要です。その際、不便な路線・ダイヤの改善や画一的な運賃設定の見直し等が必要となる場合には、地域公共交通利便増進実施計画を作成することができます。（地域公共交通計画等の作成と運用の手引きより）

計画策定⇒認定を受ける

地方公共団体は、地域公共交通計画において地域公共交通利便増進事業の概要を定めた上で利便増進事業を実施しようとする者等の同意を得て当該事業の実施計画である利便増進計画を作成し、国土交通大臣の認定を申請することが可能。
（地域公共交通計画等の作成と運用の手引きより）

当別町の場合は、地域公共交通計画を策定した翌年に利便増進実施計画を策定し、国土交通大臣の認定を受けました！



計画認定日 （策定時） 2024年3月 （計画変更時） 2025年3月

計画期間 2024年4月～2028年3月（地域公共交通計画の計画期間内）

当別町が利便増進実施計画を策定した理由

利便増進実施計画はそもそも地域公共交通計画と違い努力義務ではないので、策定しなくても問題はない。しかし、策定前の当別町の状況では、ニーズの変化への対応や利便性の向上、効率的な運行の実現のために、アクションが必要だった。

具体的には・・・

- 新築住宅が増加したエリアへの対応
- 観光需要の増加（ロイズタウン工場）
- バス路線から鉄道へのアクセス性の改善
- 運行経費の増加
- 運転手不足



具体的な事業構築が必要！

利便増進実施計画を策定するメリット

- 具体的な事業内容を記載する必要があるため、実行性が高くなる。
- 地域住民に対して、具体的な内容を示し、理解促進に繋がる。
- 補助金の優遇措置や条件緩和がある。

・・・特に、地域内フィーダー系統の補助金の上限額が上がること！

利便増進実施計画の策定で大変だったこと

- 具体的な事業内容の記載が必要
- 関係する事業者や団体等との調整が必要
- 事業実施後の運行経費の試算（必要な資金の額とその調達方法）



(4) 利便増進事業について

「利便増進事業」とは、地方公共団体が中心となって、路線ネットワークにとどまらず、運賃やダイヤ等の見直しも含めた利用者の利便の増進に資する取組を通じて、地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保を図る事業のことを示します。

イ. 特定旅客運送事業※に係る路線等の編成の変更

《事業例》

- ・ バス路線の幹線と支線の分割
- ・ 市街地中心部のバス路線の集約化
- ・ 中心市街地を回遊できるバスの新設 など



ロ. 他の種類への旅客運送事業への転換又は自家用有償旅客運送から旅客運送事業への転換

《事業例》

- ・ 旅客鉄道から路線バス（一般乗合旅客自動車運送事業）へ転換
- ・ 路線バス・コミュニティバスから一般タクシー（一般乗用旅客自動車運送事業）へ転換
- ・ 旅客船（定期航路事業）から海上タクシー（不定期航路事業）へ転換
- ・ 自家用有償旅客運送から路線バス・一般タクシーへの転換 など



ハ. 自家用有償旅客運送の導入又は路線若しくは区域の変更

《事業例》

- ・ 交通空白地における自家用有償旅客運送の新規導入
- ・ 自家用有償旅客運送の区域の拡大 など



※地域公共交通計画等の作成と運用の手引き（詳細編）より抜粋

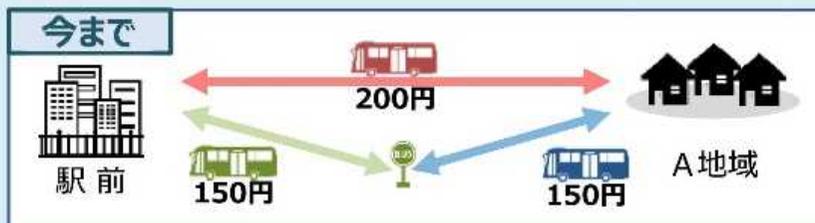


(4) 利便増進事業について

二. 運賃又は料金の設定

《事業例》

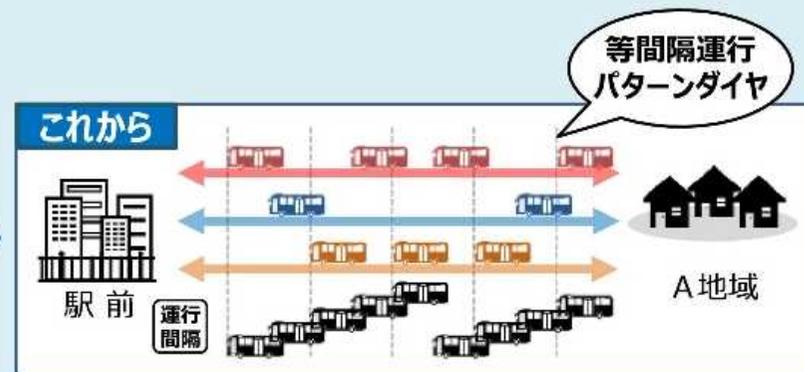
- ・ 定額制乗り放題運賃
- ・ 通し運賃 など



ホ. 運行回数又は運行時刻の設定

《事業例》

- ・ 等間隔運行やパターンダイヤ など



ハ. 共通乗車船券の発行

《事業例》

- ・ 電車・バス一日乗り放題切符、観光周遊フリーパスの発行 など



※地域公共交通計画等の作成と運用の手引き（詳細編）より抜粋



(4) 利便増進事業について

「利便増進事業」のバス路線の変更は、**具体的な**実施時期や便数、距離、経路、収支予測が必要！



1年後ならまだしも、2年後や3年後に実施するバス路線の変更はその時の状況で流動的になる・・・



段階的に利便増進事業を増やしていこう！（その都度計画変更）

各フェーズ毎に計画変更を実施することにより、計画変更の認定申請も毎回行う必要があります！



本計画のバージョン管理	事業推進のフェーズ	各フェーズで実施する利便増進事業等 ※協議状況によってこの内容は変更となる場合があります
ver 1.1~	フェーズ1	<ul style="list-style-type: none"> ・事業2-3 西当別エリアのバス路線再編のうち取組① ・事業2-3 西当別エリアのバス路線再編のうち取組②③
ver 2.1~	フェーズ2	<ul style="list-style-type: none"> ・事業3-2 青山線のデマンド化のうち取組④ ・事業6-2 キャッシュレス決済の導入
ver 3.1~	フェーズ3	<ul style="list-style-type: none"> ・事業3-2 青山線のデマンド化のうち取組⑤ ・事業5-2 グーグルマップと連携した情報発信 ・事業9-3 お試し乗車券の配布
※適宜更新	関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・事業4-1 低床車両への順次入れ替え ・事業4-2 JR駅へのアクセス性改善 ・事業4-3 バス待ちスポットの創出 ・事業6-1 運賃体系の見直し ・事業2-1 あいの里金沢線のネットワーク・ダイヤの変更

(5) 利便増進事業によるバス路線の再編

① 西当別エリアのバス路線再編（取組Ⅰ）

事業背景

西当別地区の当別町立地適正化計画において一般居住区域と位置付けるエリアでの新たな宅地造成、それに伴う住民増加・移動ニーズ変化

事業目的

- ▶ 新規ニーズに対する交通サービスの提供・サービスの利便性向上
- ▶ 当別町立地適正化計画における一般住居区域と交通拠点であるJR太美駅との交通ネットワークの形成

事業実施日

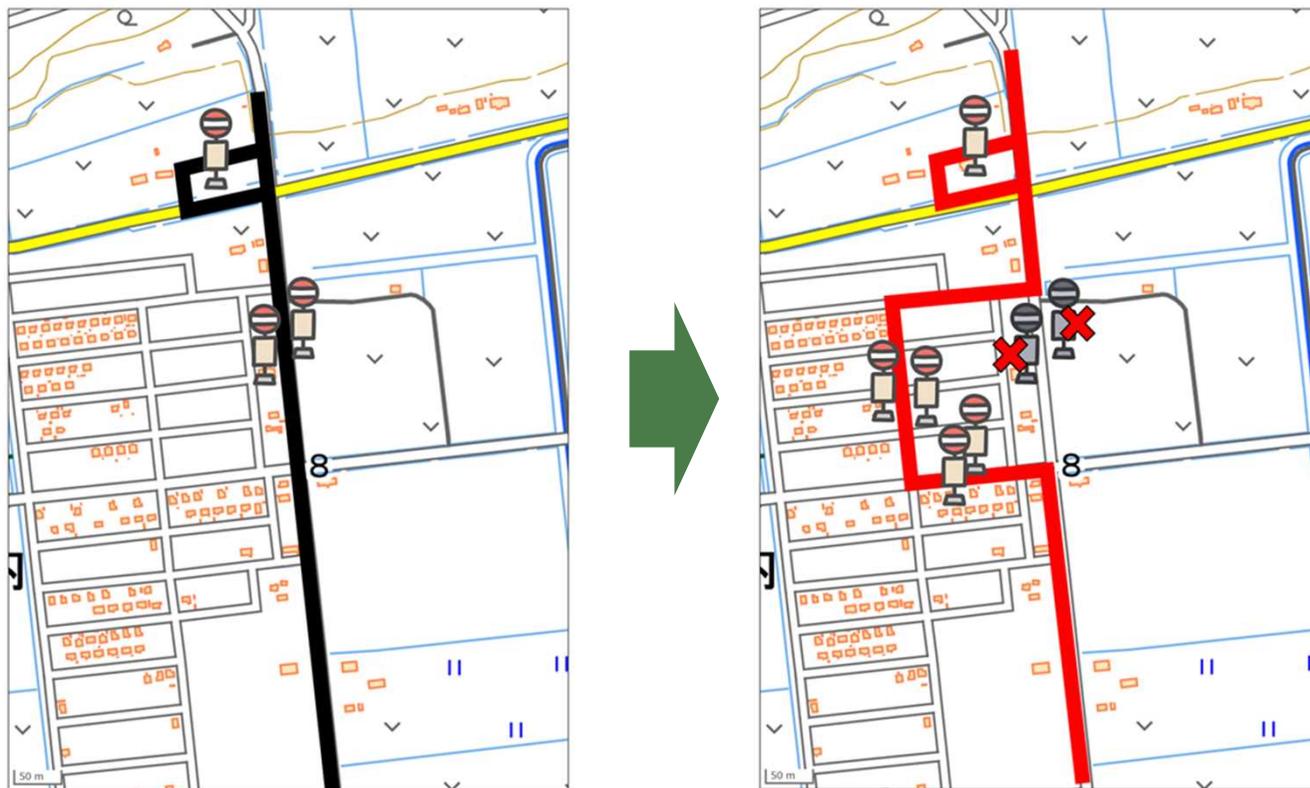
令和6年4月

対象路線

あいの里金沢線
西当別道の駅線

事業内容

- ▶ 運行ルートの変更
- ▶ バス停の新設・廃止



(5)利便増進事業によるバス路線の再編

②西当別エリアのバス路線再編（取組2・3）

事業背景

- ▶現行路線における利用の少ない系統・区間の顕在化
- ▶新規鉄道駅開業や観光ニーズの拡大

事業目的

- ▶リソースの再配分による効率的な運行・サービスの持続性確保
- ▶新規ニーズに対する交通サービスの提供・サービスの利便性向上

事業実施日

令和7年4月

対象路線

西当別道の駅線

事業内容

- ▶運行ルートの変更
- ▶バス停の廃止
- ▶ルート新設
- ▶バス停新設



(5) 利便増進事業によるバス路線の再編

③ 青山線のデマンド化（取組4）

事業背景

- ▶ 青山線の利用減少・収支悪化、人口減少による更なる利用減少の懸念
- ▶ 青山線エリア住民のJR当別駅以南への移動ニーズ
- ▶ 青山線エリア住民の高齢化の進展による乗継負担・乗降時負担の増加

事業目的

- ▶ サービス提供の効率化（運行経費の圧縮）
- ▶ JR当別駅以南へのアクセス性向上
- ▶ 乗継負担・乗降時負担の軽減

事業実施日

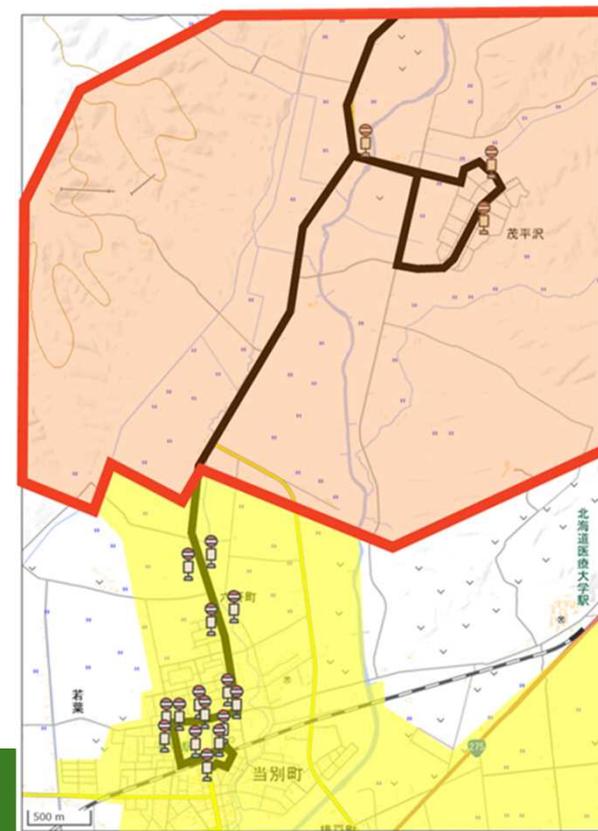
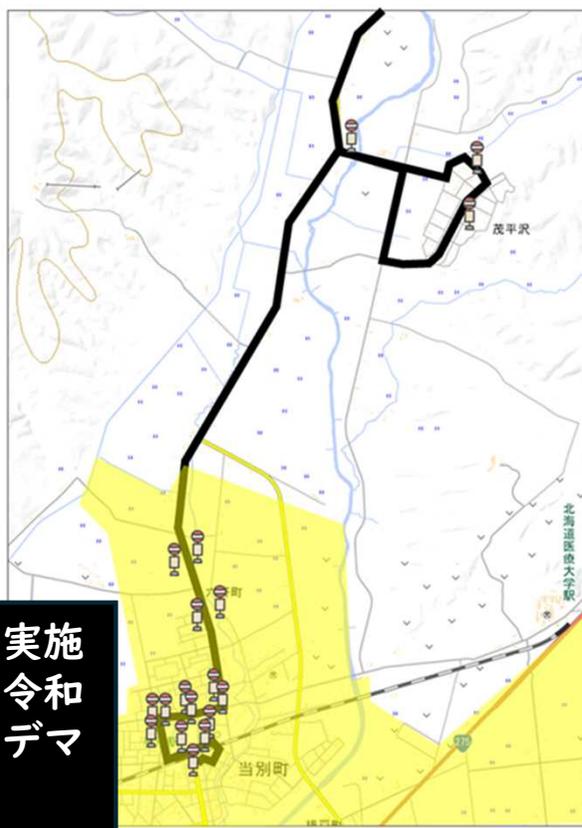
令和7年4月

対象路線

青山線

事業内容

定時定路線型からデマンド型に変更（既存のデマンドバスのエリア拡大）



デマンド化は段階的に実施することとしており、令和8年12月から完全にデマンド化する予定

6. 当別町の今後について



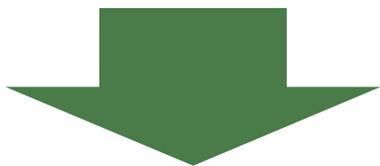
当別町は今、大きな問題を抱えています。

それは . . .



北海道医療大学の移転です。

当別町と札幌市北区あいの里にキャンパスがある北海道医療大学は令和10年4月に北広島市へ移転してしまいます・・・



当別ふれあいバスは、スウェーデンハウス株式会社と北海道医療大学、当別町の3者で運行経費を負担して運行しており、

北海道医療大学の年間負担額は1,400万円

大学関係者の利用は年間約6万人



今後、交通事業者や関係する行政機関、地域住民と連携し、北海道医療大学の移転後の公共交通について検討



利用者と財源が減っても適切な公共交通を確保する！

利便性の確保

運行経費の圧縮

運行ルートの新構築

補助金の活用



令和10年4月に予定している

次の地域公共交通計画の改定が重要になる！



7. 宣伝



未来の公共交通フォーラム

in Tobetsu Mirai Fes

多くの課題を抱える地域公共交通がこの先どうなるのか。行政・企業・コンサルのそれぞれの立場から、未来の公共交通のあり方について、当別町をベースに取組の発表やディスカッションを行います。

開催場所：北海道医療大学 中央講義棟10階
Tobetsu Mirai Fes サブステージ
石狩郡当別町金沢1757番地

開催日時

令和7年8月12日(火)
15:30~16:45

ゲスト講師



株式会社マクニカ
田中 義一 様



一般社団法人北海道開発技術センター
竹口 祐二 様

本フォーラムは北海道医療大学移転後の未来のまちづくりイベントTobetsu Mirai Fesの企画の一部として実施します。Tobetsu Mirai Fesでは、様々な企画が行われますので、併せてご参加ください！



Tobetsu
Mirai
Fes

↑ Tobetsu Mirai Fesについてはコチラ！

タイムスケジュール

- 15:30~ 開会
- 15:35~ 「当別町の公共交通の現状と課題」
当別町企画部企画課企画係
主任 田中 大樹
- 15:50~ 「当別町における自動運転バスの取組」
株式会社マクニカ 官公ソリューション推進室
チーフデザイナー 田中 義一
- 16:05~ 「どうする？これからの地域交通！」
一般社団法人北海道開発技術センター
交通政策部 主任研究員 竹口 祐二
- 16:20~ パネルディスカッション
テーマ「当別町の公共交通のこれから」



参加申し込みはコチラ

申込期限：7月31日（木）



※当日飛び入り参加も可能です

以上です！
ご清聴ありがとうございました！

